

# いわいずみ

第 180 号

平成 29 年  
11 月 1 日  
発行



ふるさと岩泉の

**大家族** ⑨

**28年度決算 189 億円を認定** … 2

町の考えを問う (8 議員が一般質問) … 8

委員会レポート … 17

二升石地区の三上昇平さん一家です。

孫 4 人とも学校で一輪車を習っています。1 月の県大会に向け演技の練習をがんばっているそうです。



# 平成28年度決算 総額 189 億円



9月定例会  
の  
あらし

9月定例会は9月6日から15日までの10日間にわたり開かれました。一般質問には8名の議員が登壇し活発な議論を展開しました。条例改正と補正予算、平成28年度の決算審査については、2つの特別委員会を設けて慎重に審査を行いました。その結果、全会一致で原案のとおり可決・認定しました。



愛土館（あいどかん）へ“えーどがん”（行きましよう）

## 監査委員 の 意見

### 懸命な努力で 健全財政を維持



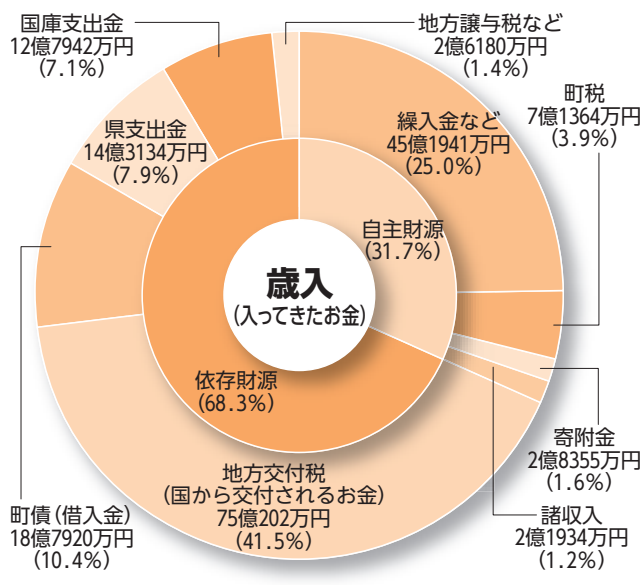
決算審査報告をする  
佐々木良治代表監査委員

平成28年度の決算総額は188億8976万円となった。予算に対する執行率が、49.4%と低くなったが、台風災害の復旧関連事業の多くが繰り越されたためである。繰越事業費分を除いた執行率は94.6%であり、おおむね計画どおりに執行された。財政構造の弾力性を測る指標の一つである、経常収支比率は、前年度に比較して数値が低下しており、実質公債費比率は上昇しているものの、財政の健全化は維持されていると認められる。

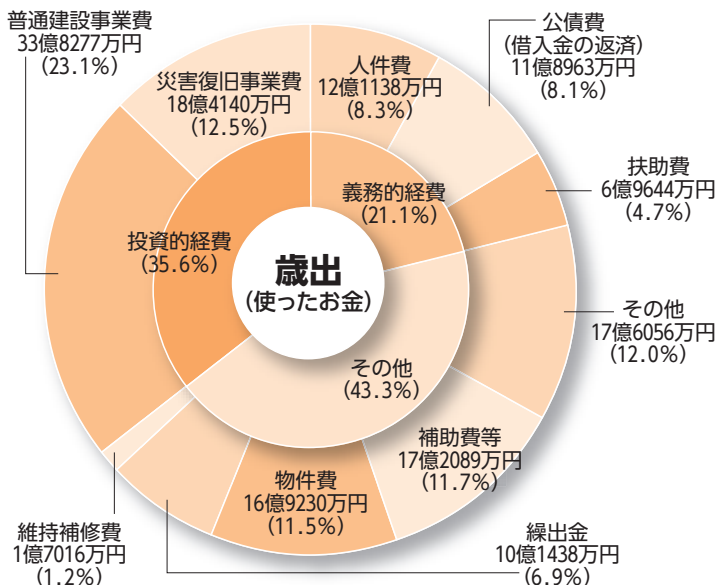
被災者支援の対応、被災施設の応急復旧や災害復旧事業など、緊急的な財政需要が増大し、かつてない非常に厳しい財政環境にある中で、主要3基金（※）を有効活用し、いち早く国や県の手厚い財政支援の確保を図るなど、懸命かつ的確で健全な財政運営と評価するものである。平成29年度以降に繰り越された町有施設等の災害復旧・復興事業や被災者支援の取り組みに万全を期し、安心、安全で町民が住みよいまちづくりが推進されるよう期待する。

（※） 財政調整基金、町債管理基金、公共施設等整備基金

# 一般会計決算の内訳



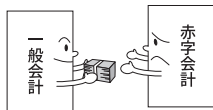
**180 億 8973 万円**



**146 億 7991 万円**

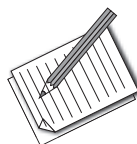
## ● 繰出金

ほかの会計などに移動するお金



## ● 物件費

旅費、消耗品など消費的性質の経費



## ● 扶助費

児童手当の支給や各種扶助のためのお金



## 平成 28 年度各会計の決算額

会計名			歳入	歳出	歳出の前年度比
一 一般会計			180 億 8973 万円	146 億 7991 万円	▲ 2.2%
特別会計	国民健康保険	事業勘定	16 億 3179 万円	15 億 9623 万円	▲ 3.1%
		診療施設勘定	4239 万円	3701 万円	14.4%
	後期高齢者医療	1 億 902 万円	1 億 846 万円	▲ 1.3%	
	介護保険	事業勘定	14 億 6319 万円	14 億 3124 万円	▲ 1.1%
		サービス事業勘定	1637 万円	1518 万円	23.4%
	簡易水道	6 億 2427 万円	5 億 6233 万円	▲ 4.0%	
	観光事業	2 億 8358 万円	2 億 5540 万円	29.4%	
公共下水道事業	1 億 8803 万円	1 億 8569 万円	13.1%		
大川財産区	2301 万円	1828 万円	16.4%		
合計			224 億 7139 万円	188 億 8976 万円	▲ 1.7%
27 年度決算(参考)			203 億 6802 万円	192 億 2496 万円	—

決算審査特別委員会（三田地泰正委員長）の質疑の中からいくつかを要約してお伝えします。

## 健康づくり事業の成果は

**問** 当町が脳卒中日本一という状況は改善されているか。

**答** 最新の情報では、女性は第1位のまま、男性は第3位となっている。減塩の成果が健診の結果等にも出てきているが、脳卒中死亡率がすぐに改善されるということではない。



百歳体操でいつまでも生き生きと

**問** 町民の健康づくりは重要課題であり、ひいては国保医療費の抑制や介護費用の軽減につながる。今後、健康づくりを町民運動として展開するため、更なる取り組みをする考えはないか。

**答** これまで健診の受診率向上のため、健診を受けやすい体制づくりに取り組んできた。また、体内から余分な塩分を排出するため野菜をたくさん食べようという「GO! GO! 5皿! 運動」、「まめもり体操」、「百歳体操」などいろんな形で取り組んできた。今年度もこれまでの活動を継続していく。

## 行政区が成り立つ方策を

**問** 台風災害などにより、行政区の変化もあつたと思うが、行政連絡員の配置状況は。

**答** 仮設団地も含めて今現在、全員配置している。

**問** 今後、高齢化や集落の過疎化がますます進むと思われる。非常に難しい問題だが、2、3年毎の動向を見込んで、今のうちから行政区が成り立つように組み立てをしなければならぬ。行政区の見直しも含め、何か取り組みをしているか。

**答** 今後台風からの復旧、復興が進んでいく中で行政区の見直しといった課題も出てくると思う。行政区を統合した場合に行政連絡員の負担を軽くする工夫等、今後研究を進めながら対応していく。



百歳体操とは

この体操は、手首や足首に重りを付けて、椅子に座ってゆっくり行う。一人ひとりの体力に合わせて重りを調節することができ、元気な人も、体力に自信がない人も一緒に取り組むことができる。

## 脳卒中対策にもっと踏み込んだ施策を

**問** 健診、減塩、体操などに加え、即効性がある対策として脳



ドックの推進に取り組むべきではないか。  
**答** 脳ドックについては、国のデータがまだ十分ではない状況である。国の考え方やデータの集積等の動向



町と住民をつなぐ行政連絡員の役割は重要です

を見ながら検討していきたい。

**問** 若い世代も脳梗塞等で倒れている。もっと踏み込んだ施策を打つべきではないか。  
**答** 長年培われた生活習慣の影響が大きい疾病であり、そこを改善する取り組みが有効だと考える。脳ドックは、早期発見には有効な手段と考えており、選択肢の一つとして研究していく。



# 小川地区複合施設の整備は

**問** 小川地区複合施設整備事業の基本設計の内容を示せ。

**答** 小川支所、生活改善センター、旧保育園の敷地に、支所とセンター、将来的な診療所、防災倉庫の機能をもった複合施設を計画している。何度か小川地域振興協議会にヒアリングを行って配置図、平面図等を作成したが、台風災害のため、最終的な住民説明までは至っていない。現在、敷地測量と地質調査後の図面作成まで終了している。

**問** 今後は予定どおり事業を進めていくのか。

**答** 現在工事が多く手が回らない状況である。時期を見て、地域の再編等も見据えた中で地元との協議をしながら進めていく。



地域の活性化につながる施設の整備が待たれます（小川支所）

## 災害応援の派遣職員は何人か

**問** 東日本大震災と台風第10号豪雨災害の復旧・復興のため、全国の多くの自治体から職員の派遣を受けた。非常にありがたいことである。

28年度と29年度の応援職員の実績を聞く。

**答** 28年度は、派遣期間が1カ月以上の中長期派遣は11人であった。内訳は、復興庁3人、岩手県1人、盛岡市2人、栗石町4人、洋野町1人である。短期派遣は、延べ1

900人に入り、避難所運営や災害査定、被災者の健康相談などの支援を受けた。

本年9月1日現在、14人の派遣職員がおり、防災対策・被災者支援・道路や河川、水道管の復旧業務などにあたっている。



復興に向け心強い力となっている応援職員（地域整備課）

## 若い世代を見据え核となる一次産業

### 畜産

**問** 一次産業生産供給体制構築支援委託の内容を示せ。

**答** 乳牛・肉用牛の中心核牧場整備に関する基本調査の委託である。

大牛内を候補地として検討しているところである。

### 林業

**問** 一次産業収益力向上調査委託の内容を示せ。

**答** 地域木材流通拠点構想に向けたマーケット調査と経営コンサルの業務委託である。

岩泉の広葉樹、FSC森林認証材（※）を使った商品企画等、森林資源を有効に活用し、町内の横の連携を密にしながら展開していく。

## 結婚記念品の支給条件の検討を

**問** 結婚記念品は、27年度は20組200万円、28年度は30組300万円の実績だが、29年度の進捗状況を聞く。

**答** 5組が婚姻の届け出をしているが、町民同士の婚姻が支給条件のため結婚記念品の対象にはならなかった。

**問** 町外からパートナーを連れてくる方も多い。町民同士でなくても結婚記念品の支給がされるよう、見直しが必要ではないか。

**答** 結婚を機会に町に来る人、子どもを町で育てる人等、新たに町民として活躍が期待されることをふまえ、内部でも前向きに検討していく。

（※）森林の管理や伐採、木材の流通、加工が環境や地域社会に配慮しているが国際基準で審査を受け認証を受けた木材

# 済生会岩泉病院に

念願の

# 新たに医師1人が着任!

町民の安全と安心につながる地域医療の確保は町政の重要課題の一つ。町では済生会岩泉病院と連携をしながらその環境整備に取り組んできたところ、9月から外科医師が着任したと報告がありました。済生会岩泉病院では医師3人の体制で地域医療を支えます。

## 岩泉町地域医療懇談会



地域医療について懇談会を行いました

### 平泉先生の紹介

氏名	平泉 宣 (ひらいずみ せん)
職名	副院長兼外科科長
年齢	59歳
出身	秋田県大館市
その他	岩手県立山田病院を退職後、済生会岩泉病院に採用。



条例補正予算審査特別委員会（八重樫龍介委員長）では、条例改正や補正予算を慎重に審査しました。審査の結果、付託された7議案すべてを可決すべきと決定。その後の本会議で、全会一致で原案のとおり可決しました。委員会の審査の中からいくつかの質疑を要約してお伝えします。

### 補正予算の主な内容

- ◇ふれあいらんど岩泉再生計画策定委託料 300万円  
ふれあいらんど岩泉の復旧整備に向けた計画をつくります。
- ◇浄化槽設置事業補助金 1426万円  
対象区域内の住宅に浄化槽を新設する場合に補助を行います。
- ◇町道裏町2号線拡幅工事 960万円  
岩泉小学校下の子育て支援住宅周辺の歩道整備を行います。

### 9月補正予算の状況

会計名		補正額	補正後の予算額
一般会計		7億8170万円	148億2686万円
特別会計	国民健康保険（事業勘定）	577万円	15億6595万円
	介護保険（事業勘定）	896万円	15億3491万円
	介護保険（サービス事業勘定）	92万円	1162万円
	観光事業	1444万円	1億9504万円



# ぴーちゃんねっと 被災状況とその対応は

**問** 昨年の台風災害で被災し、使えなくなったぴーちゃんねっとの台数と、その対応はどうしているか。

また、まだ未接続の世帯への災害など緊急時の連絡方法は。

**答** 台風災害での流失は270台強であり、NTTから寄付を頂き設置し対応している。

未接続の世帯へは緊急措置としてタブレットを配布しており、またスマートフォンでも使用できるアプリを準備している。

## 待機児童の実態は

**問** 全国的に問題となっている待機児童だが、岩泉町の待機児童数はどうか。またその対策を聞か。

であり、今後とも引き続き有資格者確保に努力し、待機児童ゼロを目指す。

**答** 岩泉町における9月1日現在の待機児童数は、ゼロ歳児5人、2歳児が1人、計6人となっている。

待機児童数ゼロとするためには、新たに有資格者が3人必要



情報チェックといざという時のお知らせにぴーちゃんねっとの活用を

## 浄化槽補助事業の見通しは


**問** 昨年の台風災害で被災した浄化槽の設置補助は、今回の補正で設置希望者全てに対応できるのか。また、浄化槽から側溝等までの整備についても補助はあるのか。

**答** 今回の補正に計上した17基を含め、全部で55基を想定しており、今年度の希望者全てに対応できる見込みである。また、浄化槽から側溝等への整備に対する補助が現在は無いため、今後、検討が必要と考える。

ぴーちゃんねっと(町の情報)と防災メールの登録方法は以下のとおりです。

**無料**です!  
お知らせがスマホに届きます!  
お持ちのスマートフォン・タブレットのブラウザで受信OK!

ご登録は簡単  
こちらから!



QRコードを読み込めない人は▼を入力  
<https://www.webpage21.jp/sk2>

岩泉町防災メールが  
スマホに届きます!

QRコードを読み込めない人は▼を入力  
URL:<http://host.jalertems.net/cgi-bin/iwaizumi/top.cgi>




岩泉の未来を担う子供たちはみんなの宝物(いわいずみこども園)

9月定例会において議決された災害復旧工事の内容は以下のとおりです。

その他の災害復旧工事についても順次発注が進んでいるところです。

工事名	金額	請負者
二級町道メンズクメ線ほか 災害復旧工事	1億1739万円	小野新建設(株)
準用河川小本川河川 災害復旧工事	1億8619万円	小野新建設(株)
準用河川田山沢川河川 災害復旧工事	1億7820万円	県北緑化(株)
林道本銅線災害復旧工事	2億4300万円	(株)畑中組
林道メンズクメ線ほか 災害復旧工事	6447万円	小野新建設(株)

# 8人の議員が発言

## ～質問内容～

### ● 畠山 昌典 (9 ページ)

- ・ 酪農振興について
- ・ 台風・大雨対策について

### ● 畠山 直人 (10 ページ)

- ・ 宿泊施設の整備を
- ・ 国道 340 号の総決起大会を

### ● 坂本 昇 (11 ページ)

- ・ 子育て支援住宅への入居を年度内に
- ・ 台風被害の支援制度活用は

### ● 三田地 久志 (12 ページ)

- ・ 龍泉洞見学の安全対策は
- ・ 岩泉町職員の働き方を聞く

### ● 八重樫 龍介 (13 ページ)

- ・ 介護保険制度へ成功報酬の導入を
- ・ ドローンによる町おこしの考えは

### ● 畠山 和英 (14 ページ)

- ・ 地域振興協議会の強化を
- ・ 国道 340 号整備の運動展開を

### ● 林崎 竟次郎 (15 ページ)

- ・ 医療費等減免は年明け後も継続を
- ・ 災害公営住宅の保証人要件に配慮を

### ● 小松 ひとみ (16 ページ)

- ・ 龍泉洞の魅力を活かした仕組みづくりを

## 人権擁護委員の候補者 小弓川さんを推薦



こゆみかわ ひでとし  
小弓川 秀利さん

人権擁護委員の候補者に浅内の小弓川秀利さん(65)を推薦することになりました。

同委員は町が議会の意見を聞き、法務大臣に推薦します。

任期は法務大臣が委嘱した日から3年間です。

# 一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めるとを言います。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効果があります。

内容を要約して登壇順(質問順)にお知らせします。なお、質疑全文を記録した会議録は、12月下旬ごろから町立図書館または役場各支所図書室で閲覧可能となる予定です。





はたけやままさのり

富山昌典 議員

# 酪農振興について

## 持続可能な酪農を目指す 伊達町長



岩泉乳業復活と共に岩泉酪農の振興も

**問** 昨年の台風被害から再スタートが切られようとしている岩泉乳業であるが、岩泉町産の牛乳から作っているという付加価値をつけることで、さらなる収益アップに繋がると思われる。

岩泉の酪農の現状を見れば危機的状況にあると言わざるを得ない。町内産の生乳確保と酪農振興のために、整備計画が構想されている大規模搾乳牧場の現在の進捗状況について、町長の所見を聞く。

**町長** 本町は重要施策の一つとして「6次産業化の推進」に取り組んでおり、岩泉ヨーグルトはその象徴である。その基盤となる酪農対策は重要な課題と捉え、生産基盤の拡大と搾乳設備の高度化などで酪農経営環境を整備しながら持続可能な酪農を目指す。

大規模搾乳牧場の整備計画については、酪農家に対する支援計画も盛り込み、平成33年度の稼働に向け取り組んでいる。

### 台風・大雨対策について 有事に備え支援方法検討

**問** 台風災害から1年経つが、沢や河川が浅くなっており大雨による土砂の流出や家屋への浸水が懸念される。

有事の際の避難や、体調不良・怪我などにより救急搬送の必要があった場合の対策について、住民・自主防災組織や消防団との連携をどのように取っていくのか。

**町長** 町消防団では被災後いち早く危険箇所の把握を行い、大雨警報等の発令時には危険箇所の巡視を強化するなど、住民に寄り添った活動をしている。岩泉消防署でも自ら道路状況の把握に努めており、有事に備えている。

今後も消防団・自主防災組織と協力し、要支援者の支援方法や避難方法の確認を行い、住民の皆様が安心して生活できるよう努める。



はたけやま なおと

**島山直人 議員**

# 宿泊施設の整備を

## 速やかに着手する

**伊達町長**



早急な整備が待たれます  
(龍泉洞温泉ホテル)

**問** 龍泉洞温泉ホテルがあったことで、被災者の避難場所として、あるいは復旧復興の工事関係者などの宿泊施設として活用されている。龍泉洞温泉ホテルの増改築あるいは新築について、早期実施に向けた内容を示せ。

**町長** 龍泉洞温泉ホテルは、現在の形となつてから41年が経過し、老朽化が進み、全面改修等を行いながら、誘客対策に努めてきた。

今後、国内外の人の流れを呼び込むためには、同ホテルの増改築は、避けては通れないものと考えられる。増築に向けた用地取得などに係る調査費を計上し、速やかに事業に着手し、早期整備を図る。

### 国道340号の総決起大会を

### 開催に向け協議を進める

**問** 旧JR岩泉線押角トンネルの国道340号線への切り替えによる工事は、宮古市側はほとんどが2車線化されているが、岩泉町側は何の進展もない。

住民の総決起大会を開き、国・県へ住民の気持ちを訴えるべきと考えるかどうか。

また、町の復旧復興のためにも、交通インフラの整備は必須と考える。調査費の計上に向けて前向きな取り組みが必要と思われるかどうか。

**町長** 国道340号は、復興支援道路として位置づけられ、重要な路線にも関わらず、現在のトンネル前後の改良がされない状況が続けば、復興支援道路としての機能が十分に生かされない。

町においても、住民による総決起大会において強く要望すべきだと認識している。宮古市も共通の認識を持ち、双方が共同歩調を取りながら総決起大会の開催に向け、協議を進める。





さかもとのぼる  
**坂本昇 議員**

# 子育て支援住宅への入居を年度内に 可能となるよう計画する 伊達町長



年度内の入居完了を目指し工事が進む  
子育て支援住宅団地

**問** PFI事業（※）による子育て支援住宅建設事業の今後の日程と入居条件は。

また、入居完了を年度内に終了することができないか。子育て世帯にとって待望の支援住宅であることに加え、毎年困難を強いられている転入者の住宅確保にもつながり、さらに自治会・子供会にも有効である。

**町長** 子育て支援住宅12棟全ての完成は平成30年3月末を見込んでいます。

入居条件は、未就学児を扶養する世帯、または出産を控えている世帯を対象とし、一番下の子が中学校を卒業するまでを入居の期間としており、その子が岩泉高等学校に進学した場合は、卒業するまでと考えています。

建設完了は、作業員の不足、資材供給の問題等を抱えているが、3月末までに入居可能となるよう計画していく。

## 台風被害の支援制度活用は 相談窓口を充実し対応中

**問** 台風10号被害に伴う生活再建支援について、加算支援金は対象者の約半数の方が未だにその制度の活用に至っていない。その状況と理由の説明を求める。

**町長** 8月末現在の加算支援金の申請率は51.4パーセントとなっている。申請していない世帯の要因は、災害公営住宅入居予定の方、河川改修に係る用地・補償費等が示されるのを待っている方、再建方法について迷われている方等が考えられる。

町ではこれまでも、訪問活動等により、生活相談窓口を開設して各種相談に応じてきた。今月から、住宅金融支援機構と共催で住宅再建相談会を開催することとして、その環境整備に努めている。

### その他の質問

- ▼ 台風災害復興工事施工者の住居確保について
- ▼ 交流事業の展開推進について

（※）民間の資金、経営能力や技術能力を活用して公共施設の建設、維持管理、運営などを行うこと


 みたちひさし  
**三田地久志 議員**

# 龍泉洞見学の安全対策は 定期的に訓練を実施する 伊達町長


 洞内のバリアフリー化に  
 向けて車いすを用意

**問** かつて、岩泉消防署と連携し龍泉洞内で急病患者が発生した場合の対応訓練を実施していたが、現在も行われているか。

また、龍泉洞の入り口から車いすでどこまで進めるかを検証しているか。

今後は、バリアフリーにより地底湖までは無理でも月宮殿（入口からおよそ200メートル）までは見学できるように対応すべきではないか。

**町長** 安全対策については、岩泉消防署の協力を得て、平成27年度に龍泉洞内の現地調査を実施した。昨年度は台風第10号豪雨災害の影響もあり、定期的な緊急対応訓練を実施できていない。

年間を通じて多くの観光客が訪れる場所であり、消防署や警察署の協力を得ながら定期的な訓練の実施と併せ、必要に応じてより具体的な緊急時対応マニュアルの策定に取り組む。

また、バリアフリー対応は、龍泉洞内は通路の狭い場所が多々あり、通常サイズの車いすでは玉響きの滝までしか見学できない。貸出用の小型車いす2台を事務所に用意し、月宮殿まで見学が可能である。

今後は、龍泉洞の見所の地底湖見学も視野に入れ、岩手県、文化庁等、関係機関と協議を進め、バリアフリーの拡充に努める。

## 岩泉町職員の働き方を聞く

### 職員の働き方改革を進める

**問** 東日本大震災、昨年の台風第10号豪雨災害等の非常時は別として、夜に役場付近を通ると遅くまで庁舎の電気がついている。

ノー残業デーをはじめとした各種施策を行っているようだが、長時間残業を見直し、家庭での困らんができるようさらに取組む必要があると思うが、町長の考えを聞く。

**町長** 岩泉町職員の働き方については、これまでも勤務時間終了時と深夜時間外勤務となる午後10時前に庁内放送で退庁を促し、新たに、当直専門員が定時に巡回し在庁職員の記録を行い、時間外勤務中においても、時間を意識した働き方のきっかけづくりに努めている。

「膨大な事務量となる復旧・復興業務を優先した業務内容の見直し」と「職員それぞれの働き方改革」を進めるとともに、引き続きストレスチェックや、健康相談を実施し、メンタル不調の未然防止に努めていく。





や え が し り ゅ う す け

八重樫龍介 議員

# 介護保険制度へ成功報酬の導入を

## 国の制度改正の動向を注視していく 伊達町長



高齢者にやさしい生活を考える必要があります（グループホームよろこび）

**問** 台風災害からの復旧・復興と並行して取り組まなければならない施策に、人口減少及び高齢化社会への対応がある。高齢化率41%を超えている本町にとって、介護保険事業はその一つである。運営維持には介護保険料の抑制が必要であり、その施策に介護認定者の介護度の改善策がある。そこで、対象者の要介護度が軽くなった場合は、事業所や入所施設に報奨金を出す事業を実施すべきと思うが考えを問う。

**町長** 介護保険事業へのインセンティブ導入事業（※）については、既に他の自治体で実施している事例もある。国においても、増加傾向にある介護給付費の抑制策として、要介護状態の改善が図られた場合に介護報酬が加算される仕組みなどを検討している。町内事業所の事業状況等を把握しながら、国の制度改正の動向を注視していく。

## ドローンによる町おこしの考えは 有害鳥獣対策として試験導入

**問** 本町の広大で自然豊かな地形を利用して、ドローンの競技場や練習場をつくる考えはないか。このことにより龍泉洞と併せた誘客となり、交流人口の拡大に繋がると思われる。

また災害地で行方不明者の捜索や、立ち入りが困難な場所へ物資等を搬入することができ、産業としての期待もあることから、積極的に取り組んでいくべき分野と考える。

**町長** ドローンの競技場や練習場の整備については、現在は台風災害からの復旧・復興を最優先に考えている。

しかし、中山間地域で高齢化が進展している本町において、有害鳥獣対策が困難な状況にあり試験的にドローンを導入する計画である。大災害も経験していることから、そのほかの利活用にも有効な展開が期待できると考えている。

（※）人の意欲を引き出すために外部から刺激を与えること



はたけやまかずひで

**畠山和英 議員**

# 地域振興協議会の強化を

## 在り方を年度内にまとめる

**伊達町長**



地域の活性化が必要です（大川地区）

**問** 各地域振興協議会は、これまで地域の特性を生かした活性化、災害対応など、協働のまちづくりを中心として推進してきている。人口減少が進み、集落の維持存続が厳しい中で、無くてはならない組織としてますます期待されている。

この様な中、組織運営、地域振興推進員の雇用改善など課題も多く、その方向性や在り方をどう検討し、充実強化を図っていく考えか。

また、同じ様な団体として、岩泉町地域づくり支援協議会があるが、支援員を各地域振興協議会にも配置、連携し一体となって地域の活性化に取り組みべきであるか。

**町長** 地域振興協議会の充実強化については、現在、その方向性や在り方の検討を進めている。特に地域振興推進員の職務や待遇改善、組織法人化の是非等、年度内の取りまとめを目指して取り組んでいる。

岩泉町地域づくり支援協議会は、地域づくり活動を展開し地域のコミュニティ再構築などを図るための組織である。各地域振興協議会等とも連携して実施している事業もあるので、さらに連携を深め充実した活動が展開されるよう支援していく。

### 国道340号整備の運動展開を

**総決起大会を開催、町の支援体制を整える**

**問** 国道340号の押角トンネル整備に引き続いて、落合・押角峠未改良区間の改良工事が途切れることなく発注整備されることが望まれる。要望活動に加えて「国道340号整備促進住民大会」を開催し、住民の声を国・県に訴え、早期整備を働きかけべきだ。

また、町として早期整備を図るため事業推進の支援体制を執るべきと考えるがどうか。

**町長** 国道340号の整備は、現在押角トンネル築造工事は発注されたものの、未改良区間は依然として調査費の計上すらない状況。総決起大会も実施していかなければならない。宮古市と共同で開催すべく実施時期、場所等協議を進めている。

町の支援体制については、県で行う用地取得についても出来る限り交渉等協力をしていく。

### その他の質問

▼台風第10号災害からの復旧について





はやしぎきょうじろう

林崎竟次郎 議員

# 医療費等減免は年明け後も継続を

## 期限後も延長が必要と認識する 伊達町長



台風10号国保医療費減免等の継続を喜ぶ町民

**問** 台風10号被害からの復旧・復興は緒にいたばかりである。被災者一人ひとりの生活再建が最大の課題である。台風10号被災者の国保医療費・介護保険利用料の減免は平成30年1月1日以降も継続するべきと考えるがどうか。

**町長** 8月に開催した国保・介護の各運営協議会での意見を参考に減免期間を本年12月31日まで延長したところであるが、台風災害の復旧・復興事業がこれから本格化していく中で、被災者に対する医療費減免は来年1月以降も1年程度延長することが必要と認識している。

### 災害公営住宅の保証人要件に配慮を 個人の事情に柔軟な対応をしていく

**問** 災害公営住宅の入居を希望している方で、連帯保証人が見つからないと心配している方もいる。

災害公営住宅への速やかな入居により、穏やかな生活を確保するため、必要な配慮を行うべきと考えるがどうか。

**町長** 災害公営住宅の入居の際の連帯保証人については、個人の事情がある場合には、それぞれの実情に柔軟な対応をしていきたい。

町営住宅と併せ、入居に関する規則の改正も検討を進め、災害公営住宅を希望されている方が入居できなくなることがないように配慮していく。

#### その他の質問

- ▼ 東日本大震災被災者の国保医療費の窓口負担、介護保険利用料の一部負担の免除措置の継続について
- ▼ 入学準備金（就学援助費）の入学前の支給について



こまつ  
小松ひとみ 議員

# 龍泉洞の魅力を活かした仕組みづくりを

## 町民の財産として新たな構想に取り組む

伊達町長



岩泉の魅力をもっと発信していきましょう

問 龍泉洞の入洞者数が1500万人を達成しているが、昭和36年から54年目と考えると少ないと思う。平泉の藤原祭りは5日間で34万人を集めるという。集客数だけの問題ではないのだろうか、これを考えると、龍泉洞はさらに集客できる魅力を満載した宝物のはずである。

国では、観光を基幹産業へ成長させ、「観光先進国」という挑戦に踏み切っている。それは、「これを見せればいいだろう」という発想ではなく、資源の魅力を磨いてから世界に発信するということである。

この夏、龍泉洞の青をテーマにしたイベントが民間団体によって開催されている。観光客のみならず町民の方からも好評で、「素敵だ」といううれしい声があった。

新しい視点を持つ事により、龍泉洞の魅力はさらに大きなものとなり、市場の拡大策ともなり得ると思うが、どうか。

町長 女性ならではの視点や気づき、若者の斬新なアイデアなど新しい発想での町内イベントが多く開催されている。

民間団体が主催したブルーイイベントは龍泉洞園地に爽やかな彩りが添えられ、龍泉洞の魅力が存分に伝わり、龍泉洞リピーターの拡大につながったと考えている。

「龍泉洞は町民の大切な財産」であり、これを生かすことは町全体の産業振興につながると確信している。

ハード・ソフト両面の整備と必要に応じた支援と新たな活用構想に取り組む。

今後、ラグビーワールドカップ、東京オリンピックとといったビッグイベントや三陸ジオパークの推進で外国人旅行者の増加も期待されることから、インバウンド対応の観光インフラの充実と人材育成に力を注いだ観光施策を展開し、誘客に努めていく。

# 委員会レポート



厳しい町の現状を聞く委員（宮城県七ヶ宿町）

## 定住化対策

総務常任委員会（坂本昇委員長）では、9月26日、宮城県七ヶ宿町の定住化と子育て支援策について研修をしました。9月27日には盛岡市でドローンの活用策について学びました。

1人、高齢化率46.4%、18歳以下の人口が1444人です。

とにかく転入者がいなければ町が消滅するという危機感から「新築住宅を差し上げます！」とのキャッチフレーズで取り組んでいました。

事業内容は、20年住み続けられ、土地と住宅を無償譲渡するものです。建築前に入居者を決め、その入居者が自由に設計できることが魅力で、40歳未満で義務教育終了前までの子どもがいる世帯を対象にしています。

20年間は家賃対応とし、月3万5千円、敷金は3か月分、上下水道は完備。

本町でも譲渡型町営住宅の建設促進が再三話題にのぼりますが、七ヶ宿町のように大胆に踏み出すには相当な論議が必要だと感じました。

## 子育て支援

保育料や給食費、高校生までの医療費無料化を先駆けて実施しています。さらに、小学校、中学校、高校の入学時に支給される子育て応援支援金がありました。第1子は30万円、第2子は50万円、第3子以降は70万円が段階的に支給されます。いかに町が子育て支援に力を入れているかが伝わってきました。

新たな提言として考えていきたいと思えます。

## ドローンの活用策

最近「ドローン」の活用が目にする事が多くなりました。災害に強い町づくりの一環として、ドローンによる捜索等を行っている(株)ピクチャーで視察研修を行いました。

集落が点在している本町にとって、災害時はドローンによる捜索活動や物資の運搬等が期待できます。また鳥獣害対策にも使用可能

であり幅広い活用が見込めることから、早急な対応が必要と思われました。



このドローンの飛行範囲は半径2kmです

## 第三セクター

各社とも被災後も努

産業常任委員会（三田地久志委員長）では、8月29日に岩泉ホールディングス株式会社（以下、岩泉HD）傘下の経営陣と台風被災後の現状と課題について、意見交換を行いました。

力を重ね自社の強み、弱みについて分析し、解決策についても検討していました。

今後においても、岩泉HDが、地域内を牽引する会社となり、全産業への好循環を構築することで、経済活性化と雇用促進がさらに進み、若者の定住化に繋がる会社運営を期待します。



経営陣の考えを伺いました



# 皆さんからの

# 請願・陳情

9月定例会に提出された請願は2件、陳情が2件でした。  
担当の常任委員会で審査した結果、次のとおり決まりました。  
なお、陳情1件は議会運営協議会で協議し、議員と町当局へ資料配布しました。

請願等件名	請願者等	紹介議員	審査の結果
台風10号(平成28月30日)被災者の医療費減免の期日延長の請願(総務常任委員会)	大下勝子	林崎竟次郎	継続審査
日本政府がすみやかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める請願(総務常任委員会)	岩手県原爆被害者団体協議会 ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会 会長兼代表 伊藤宣夫	林崎竟次郎	継続審査
「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について(総務常任委員会)	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣一徳	—	採択

## 臨時会

平成29年第5回と第6回臨時会の主な内容をお知らせします。

提案された議案は、審査の結果、すべてを全会一致で原案のとおり可決しました。

### ▽意見書の要旨

森林の整備・保全などを推進する市町村の役割を踏まえ、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書

採択された請願などの意見書は、議員発議で提出。  
これを全会一致で可決し、国の関係行政庁に送付しました。



愛土館のオープンは快晴に恵まれ盛大に行われました

## 第5回 (7月11日)

### 浜の駅「愛土館」 の管理者決まる

小本地域資源利活用施設(愛土館)の指定管理者に小本浜漁業協同組合(代表理事組合長三田地和彦)を指定しました。

この臨時会では、補正予算案1件と契約議案6件、財産の無償貸し付け1件、財産の取得1件および公の施設の指定管理者の指定1件を審議しました。

- 補正予算の主な内容
- ▽埋蔵文化財調査委託料 1296万円
- ▽学校施設小工事(小川中学校土砂撤去) 134万円

## 第6回 (8月8日)

### 球場災害復旧に関する議案を可決

この臨時会では、台風災害復旧工事の契約議案13件を審議しました。

- 岩泉球場災害復旧工事

- ▽建設工事
  - ・金額 1億4472万円
  - ・請負者 宮城建設(株)
- ▽電気工事
  - ・金額 6966万円
  - ・請負者 (株)奥村電気商会
- ▽駐車場・サブグラウンド工事
  - ・金額 8391万円
  - ・請負者 小野新建設(株)

## 議員と語る会を開催します

議会活動の報告と町民の皆さんとの意見交換会を開催します。

時間は各会場とも、

午後7時～午後8時30分までの予定です。

多数の参加をお願いします。気軽にご参加ください。

月 日	地区名	会 場
11月 6日(月)	小本	小本津波防災センター
11月 8日(水)	岩泉	町民会館2階大会議室
11月 13日(月)	小川	小川生活改善センター
11月 24日(金)	安家	安家生活改善センター
11月 27日(月)	大川	大川基幹集落センター
11月 30日(木)	有芸	有芸生活改善センター

## 議会を傍聴しませんか

次の定例会は、  
**12月上旬に  
開会予定です**

**傍聴の手続きは簡単!**

傍聴席の入り口で、名前と連絡先を書きだけです。



# 私・の・記・憶・に・残・る・ア・ン・グ・ル

## 泥まみれの玩具

※今回は「私の好きなアングル」からテーマを変更して掲載しています。



平成28年8月30日、岩泉町に甚大な被害をもたらした台風10号災害は、町民にとって過去に記憶のない大災害でした。

災害後の9月2日に町内向町地区にある消防屯所に入ると、消防車の玩具が床に落ち泥まみれになっていました。洗い流そうとしましたが、この災害を忘れない様に泥はそのままに写真に残しました。「思いついたくない」しかし、「捨ててはくけない」と思いました。



あわ たつと 定津彰さん  
(岩泉 56歳)

町内の写真愛好家が撮影した本町の風景を紹介するコーナーです。

### 編集後記

台風第10号豪雨災害を受けた平成28年度の決算審査に臨み、ありとあらゆる局面の中で苦勞の連続だったことが思い起こされました。そして、決算の数字の一つひとつに最大限の努力が見てとれます。

町中の誰もが本当によくがんばりました。そして、まだまだ課題はありますが、より強く力を合わせて前に進む希望の一助となるような紙面作りを目指します。

町民と議会をつなげる「議会だより」です。皆さんのご意見ご感想をお寄せください。

(副委員長 小松ひとみ)

### 広報広聴常任委員会

委員長	八重樫 龍介
副委員長	小松 ひとみ
委員	野 舘 泰 喜
	三田地 久 志
	島 山 和 英
	島 山 昌 典



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一岡伐に寄与した紙」を使用しています。